# 









て六十回の節目となる本年の大会は、アクト の持ち回りで行われており、令和の最初にし シティ浜松を会場として開催しました。 岡県保育研究大会は、県内東・中・西部

持つ社会の実現を目指して」を主題とし、保 むことが出来ました。 換が行われ、参加者同士がお互いに研鑽を積 保育実践などの議論を深め、 育所・認定こども園等の社会的意義と役割、 「すべての人が子どもと子育てに関わりを 積極的な意見交

三名が日頃の保育実践を発表し、 今年も八つのテーマについて、 参加者から 分科会毎に







保護者との関係性など、参加者の誰もが身近 じた関わり方や支援のあり方、環境の設定や 日々の保育の中で出会う、子どもの成長を感 いて学び合う機会となりました。 の質疑を受け、 っかけになったと思います。 に感じられる発表は、改めて保育を考えるき 互いに今後の保育・教育につ 保育者が

りましたことは、すべての関係者の方々のお ける場となれば幸いです。 なこと、大事なことを的確にとらえ、社会に 対して『保育』を発信していく力をさらに磨 である保育者が、子どもたちの『今』に必要 これからも、子ども達にいちばん近い存在 本大会が滞りなく、充実した研修の場とな

陰と深く感謝申し上げます。

#### 第 分科会

~すべての子どもにむけて~】 【新たな時代の保育実践 ①富士市 えのき保育園

藁科ブロック 主任保育士 後藤久美子

③いわた保育士会 新たな時代の 保育教諭 村松 佐美

保育実践部会

このはな保育園 保育士 長 山川 伊藤 恭子 悟

議

長

長泉町

静岡産業大学

助言者

長泉町 このはな保育園 授 漁田 俊子

記録者

保育士 内田 陽子

# 季節を感じることで心を育てる

ら見直した。子ども達が「五感を通して季節 保育を実践しているえのき保育園。今回は、 子ども達との丁寧で細やかな関わりが、 繋がっていくということに改めて気づいた。 実行を繰り返した。今の自然を感じ、今を楽 や自然を感じる」ことに焦点をあて、計画・ かにしてくれるものとは何か」という観点か 四季折々の保育や伝統的な行事を、「〇・一・ とした表情や笑顔を生みだしていた。 しく意欲的に過ごすことで、心豊かな成長に 一歳児の発達に沿った、子どもの身も心も豊 開園以来、乳児保育の重要性を深く認識し、

# 自分から遊びを造り出すための

ども園。藁科ブロックでは、各園で実際の事 みに裏打ちされていた。 るのは、このような積極的で質の高い取り組 の衝突や、 演会やアドバイスから、専門性の向上を図っ きに繋がっている。さらには、講師による講 で、客観的な振り返りができ、一歩先の気付 取り組みをしている。一度で終わらないこと それを園内に持ち帰り、再度検討するという 容をブロック研修に持ち寄り検討し、さらに 例を用いた研修を行い、そこで話し合った内 ている。大人が先回りしすぎず、子ども同士 八つのブロックに分かれる静岡市の公立こ 悩むという行為までも大切にでき

### 発表(三) 保育者が子どもの育ちを捉える力を 養うために

の近道になっていた。 りに思えた取り組みは、 を、まずは目に見える数値にする。一見遠回 コメントが増えていた。保育者としての意識 前向きな傾向が表れ、自由記述にも肯定的な じ調査を行い、回答の変化を分析。明らかに 価、その後、事例検討研修をはさんで再度同 分の姿や保育、人間関係などを自分自身で評 の保育実践部会」。アンケート調査では、 柱で取り組んだ「いわた保育士会新たな時代 ケート調査と公開保育の事例検討という2本 子どもの育ちを捉える力を養うため、アン 「保育の質向上」へ

った。

保育者の援助

#### 助言者より

験を提供している。 ための言葉がけは、 しみに変えてしまう計画、豊かな感性を育む 実践しているえのき保育園。 「五感を育てる」事を、 乳幼児期に欠かせない 丁寧に、 雨の日さえも楽

士会新たな 取組み自体の素晴らしさに加え、数値の持つ 感・意欲・思考等)を記録に残すことで、日々 る。事例を深く検討し、子どもの思い 藁科ブロックの取り組みが非常に参考にな 説得力を改めて感じさせられた「いわた保育 の実践と一〇の姿とを見事につなげている。 「日々の保育と指針をつなげる」ためには、 (責任

未来のため 時代の保育 分科会とな ことを強く にしている 瞬間を大切 に、今この ども達の からも、子 ずれの発表 の発表。い 実践部会\_ 記 録

### 一分科会

テーマ 【配慮を必要とする子どもや

発表者 ①伊豆市立熊坂こども園 家庭への支援に向けて】

保育教諭 佐藤

梓

発表者 ②牧之原市 静波保育園

保育士 山本早知子

③湖西市立新居保育園 保育士 山本美早紀

議

長

島田市

五和保育園

長 山口 学世

静岡大学教育学部

助言者

教 授 香野 毅

初倉保育園 曽根 初乃

島田市

# 配慮を必要とする子どもや

ささえる~ 家庭への支援にむけて

もが生活しやすい為の方法を考えていく。ま ミュニケーションや信頼関係を構築し、子ど 支える保育を行う。子どもを語る会で支援体 なわれ、関係機関がそれぞれの専門性の視点 共に保護者支援にも取り組み、保護者とのコ 制の見直しをし、子ども理解を深めていくと 情報共有など、園全体でのチームで子どもを の違いを生かした連携にも取り組んでいる。 た、市の三つの課が繋がり、五才児健診が行 園内の特別支援コーディネーターを中心に

## 配慮を必要とする子どもや 家庭への支援にむけて

~育ちの喜びが見えるエールプラン~

る事で、楽しいと思える体験や、やってみよ 振り返り、改善を行う事で、保育の目標が明 きるように子どもの育ちを応援するエールプ 質からサポートが必要と思う項目をあげ、 を意識し、保育することができた。 うと思う気持ち、自己肯定感を育む環境構成 ニバーサル支援となる。エールプランを立て ランをたてた。三ヶ月に一度、計画、実践 ども一人一人が自信を持ち、主体的に活動で 確となり、どの子にとってもわかりやすいユ 支援を必要とする子どもについて、その特 子

## 配慮を必要とする子どもや 家庭への支援にむけて

~専門機関へのつながりについて~

きた。また、専門機関の見学を通して、 成長にプラスになる事を実感した。 きな成長が見られ、連携を図る事が子どもの や保育園でも同じ様に対応していく事で、 三才児になって、家庭、保育園、療育機関が 少しずつ変化し、A男にあった支援方法を学 係を大切にしてきた事で、保護者の気持ちも あるA男と関わりながら、保護者との信頼関 上手く繋がり、A男の成長を保護者と共有で んでいきたいという思いも保護者に伝わり、 一才七ヶ月の入園当初より、気になる姿の

害があるかもしれないという受け止め方に違 ちで出来ている事と子どもが出来ている事を いがでることがある。 の難しさがあり、言語に制約がある中で、障 籍の子どもでは、異文化からの適応には一定 整理した上で、個別計画を立てていく。外国 安定し豊かになる事を目指す。また、自分た 適切なアセスメントをもとに、その子に合っ 関としては、医療、相談、療育機関などがある。 た支援や理解を提供することで、生活がより 専門機関をうまく利用できている。関係機



### 第三分科会

テーマ 【保育者の資質向上を図る】

☆者 ①伊東市 川奈愛育クラブ

園 長 林 英美

市の飯田ブロック

扇 長 吉川 千愛静岡市立飯田北こども園

③浜松市 湖東白ゆり保育園

主任保育士 笠原 仁美

浜松市 みそらこども園

議

長

教 授 山本 睦

助言者

浜松市 みそらこども園

記録者

主幹保育教諭 今村 事美

# ~子どもを内面から理解し、2表に 保育者の資質向上を図る

総合的に指導する力~

育ちを通して「大人が何を大切にしているのや子どもを見る目を高めていった。子どものマニュアル化などを実践し、保育者の専門性ての自己分析、子どもの発達の把握、保育のまた、現場の問題解決としてツールを使っ

できている。 気づき、保育の質の向上に繋げていくことがか子どもにきちんと伝えることの大切さ」に

# 〜質の高い教育・保育を目指す〜発表① 保育者の資質向上を図る

いった。
はで保育するという気持ちが高められてき、皆で保育するという気持ちが高められてをすることにより職場の人間関係が構築でをすることにより職場の人間関係が構築でをすることにより職場の人間関係が構築でをすることにより職場の人間の使い方を工夫し気作りが必要である。時間の使い方を工夫し

関内研修や公開保育では保育者が課題を知り、助言を受けることで保育の工夫や幅が広がり、次への実践へと活かすことができた。可視化していく環境作りも必要である。保育可視化していく環境作りも必要である。保育が互いを尊重し保育者としての資質向上に

# 〜法人園の資質をあげるために〜発表三 保育者の資質向上を図る

る中で、人的・物的環境を整える大切さを再 機している。職員は他園の担当学年クラスの 保育に参加し、職員同士の交流を図り、お互 いの保育を観て学び持ち帰ることで保育の視 いの保育を観て学び持ち帰ることで保育の視 いの保育を観て学び持ち帰ることで保育の視 はしている。職員は他園の担当学年クラスの という

ていく。

げること

とは保育

ていくこ

の質をあ

認識した。

職員の資質向上を図っていく。いった。今後も法人全体で研修等に取り組みンド」について学び、日々の保育に活かして園外研修においては「カウンセリングマイ

#### 囲 助言者

にとって必要な力になる。

子どもの自発性や創造性を育てるには、あると考えると保育が変わる。非認可の中でその子がどんな役割を担うのか?個自己をコントロールする力が育っていく。集中で子どもは学び、集団と個の葛藤の中からる程度の枠が必要である。選択肢を準備する子どもの自発性や創造性を育てるには、あ

資質の向上とは保育者一人一人の向上のこ

子ども、

嵐、

保護者が保育者、

とである



一体とな

### 第四分科会

テーマ 【地域の子育て家庭への 支援の充実にむけて】

発表者 ①御殿場市 保護者支援委員会

御殿場市立東保育園

川 口 恵子

静岡市立折戸こども園

②静岡市

三保ブロック

和合こども園 副園長 石橋さおり

保育士 佐藤

君枝

③浜松市

すみれ認定こども園 長 後藤 恭佑

静岡福祉大学子ども学部 授 永田恵実子

助言者

議

長

富士市

すみれ認定こども園 保育士 石田 礼子

富士市

地域の子育て家庭への 支援の充実にむけて

~今求められる

『保護者に寄り添う支援』とは~

とができた。保育士と保護者が「理解し合 験」等の実践を行い、保護者理解を深めるこ なるための園内掲示の工夫」「一日保育士体 った。実際の取り組みとして「親子が笑顔に くことを目的に御殿場市公立九園で研修を行 子どもの育ちを家庭と連携して支援してい 「知恵を出し合う」,共に学び合う. 等の関

> きるよう保護者支援を充実させていきたい。 ないかと考える。今後も安心して子育てがで 係性を築くことが保護者に寄り添う支援では

### 発表 地域の子育て家庭への

子育ての楽しさが実感できる保護者支援 〜笑顔で子育てするために〜

う、地域ネットワークの核となっていきたい。 担当保健師との連携、子育て相談、アンケー 預かり保育」を実施している。子育て支援事 た。今後も地域と共に子育てに取り組めるよ 信頼関係を築くことが大切であると再認識し 寧な関わりや保護者への発信方法の工夫し、 た在園児の保護者支援の取り組みとして、 とで不安な表情を解消することができた。 けに頼り、悩む保護者に出会い、寄り添うこ ト等を行った。それにより、ネットの情報だ 業の実施に併せて、自治会回覧の活用や地域 して「おしゃべりサロン」「園庭開放」「一時 静岡市のこども園では、子育て支援事業と ま

地域の子育て家庭への

~子育ての不安も楽しみも 支援の充実にむけて

利用者同士、地域、専門機関とつなぐことを は、温かく迎え入れる、身近な相談相手となる 目で地域の子育て支援を行っている。支援者 役割と考え、支援講座の開講等の工夫を行っ 和合保育園では、「わわわひろば」という名 みんなで共有しよう~

> 識し、物的環境と人的環境、相談技術の向上、 連携を深め、太いパイプを繋げていきたい。 は今以上に地域、子育て関係機関、団体との 自分自身の振り返りの大切さを感じた。今後 た。それにより、子育て支援の重要性を再認

## 支援の充実にむけて

助言者より で記述を行うとより良い。参考文献を記載す 方法、結果、考察、結論、今後の課題の流れ る。また、研究するにあたり、背景、目的、 でどう変わったのか評価する力も必要であ クをすることである。保育実践を行う前と後 の役割は、カウンセリング・ソーシャルワー うことが一番大切である。保育士(支援者) 子育て支援事業は保護者に来てもらうとい



### 第五分科会

テーマ【子どものより良い育ちに向けた 関係機関とのネットワーク】

①富士宮市 富岡こども園

②静岡市 静岡ホーム保育学園 副園長 足立 和俊

長 横山 羊子

③磐田市 西貝保育園

静岡市 えじり保育園 長 松下 忠史

議

長

助言者 常葉大学健康プロデュース学部 長 井出孝太郎

静岡市 だきしめこども園 准教授 中村 小林かおり 俊哉

記録者

## 子どものより良い育ちに向けた 関係機関とのネットワーク

〜幼・保・小連携活動を通して〜

互いに勉強しつつ、連携活動を継続していく また、子どもの育ちを共有していく手掛りと 場との意識の違い・考え方のズレが明確にな 携活動を十年続けている。計画に基づき年五 かけ教師間の交流も図っていきたいと思う。 ってきた。今後は、園側からも積極的に働き 証をしていく中で、保護者・小学校と保育現 回交流を行い、実施後にアンケートを取り検 大切さを感じている。 して、「十の姿」を幼・保・小が日々頭に置き、 姉妹園である幼稚園と近隣の小学校との連

# 子どものより良い育ちに向けた

# ~育ちの連続性を確保するために~

と思う。 こども園は連携への意識も高く情報提供の場 みをし、接続をどのように考えているかにつ の地域に即した働きを今後も考えていきたい ションによる実践事例を基に検証を行った。 感じる。接続をどうするか、園側からのアク も少なくなり、地域との関わり方にも変化を 携」を考える中で、各園がどのような取り組 を望んではいるが、現状は小学校からの案内 いて園長会でアンケートを取った。保育園・ 緒に過ごした五歳児をどう見送るか。 新保育要領、指針にもある「小学校との連

#### 発表三 子どものより良い育ちに向けた 〜地域、居場所との共同子育て〜 関係機関とのネットワーク

を垣間見ることが出来ている。今後も地域と ども達に知識・知恵を与える場となっており、 といった「繋がり」が激減している。そうし 験・経験をする場の少なさ」や「会話・継承 の繋がりを続けることで「より良い育ち」を 日々、子ども達の姿の中に「十の姿」の育ち に誘致した居場所「楽多クラブ」の存在は子 きたことが、確実に子ども達の育ちに結びつ まれ、保育を通し交流を重ね関わりを深めて いていることを実感できている。又、三年前 た世相に反し、地域や高齢者との繋がりに恵 現代は、子ども達を取り巻く環境からは「体

# 関係機関とのネットワーク

ネットワークを大いに活用しながら、 を生きる子ども達に必要な「思考の力」も、 る。今後AI化が進んでいく中で、現場だけ ことが問われているように感じている。未来 み、また小・中への連携を視野に入れた上で では補えない現状に、地域・小学校を巻き込 の願いを持ち日々真摯に保育に向き合ってい の連携を考え、、どのように育って欲しいか 「どう育てていくか」を考え、保育していく 園は「十の姿」を常に念頭に置き小学校



うさま」などのあいさつも、命をいただいて

できた。また、「いただきます」や「ごちそ の人の手を経てできていることを知ることが

【「食を営む力」の基礎を培う

食育の推進

①三島市 白道保育園

主任保育士 土山 麗子

②焼津市 たかくさ保育園 栄養士 望月

菊川保育園 悠衣

③菊川市

保育士 榛村供見子

議 長 御前崎市立白羽保育園

長 笠原 洋子

理事長 吉田 隆子 助言者

NPO法人こどもの森

御前崎市立白羽保育園 副園長 徳本 美里

## いただくことへの感謝の気持ちを育てる いのちの不思議といのちを

命の尊さ、

ちが食べているものは手間をかけ、たくさん ことに気づくことができるように実践してき たちに命の尊さや、生かされている命という た。結果、子どもたちは経験の中で、自分た 梅シロップ・梅干し作り、稲作り、 かけがえのなさを子ども達に伝えていく~ ブリの調理などの活動を通し、子ども 野菜の

> 持ちであるということの再認識にもつながっ に取り組んでいきたい。 た。この経験を活かし今後もいろいろな活動 いる、たくさんの人のおかげという感謝の気

## 「ごちそうさま、おいしかったよ」 の声が聞こえる給食を目指して

共感し合うことで園全体での連携による食育 践してきた。食環境は保育全体を通して提案 育士と両方の面から考えた。PDCAサイク の推進が図られることがわかった。 保証することが重要であり、各専門職が共有、 ピ集の作成・配布をしたり、おたより、 苦手な食材を使用した保育園での人気のレシ かった。そこで食育アンケートを実施した。 ルで残食の原因を見つけ解決できることに気 を通して家庭に情報発信したりすることを実 づき、課題の中で家庭との連携が重要だとわ 残食に関する日々の取り組みを給食室、 **〜残食から見る食環境を考える〜** 

## 乳幼児期における

## 咀嚼力の形成と向上

ごっくん

たのしいね~

後も咀嚼の重要性を職員間で共通認識し、 護者共に意識が変わり向上してきている。 を柱にし実践してきた。子ども、保育士、保 の重要性に対する保護者の意識を高めること 保育士として必要な知識と技術を養う、咀嚼 べる子どもを育てる、咀嚼力形成のために、 噛むことの大切さを知り、上手に噛んで食

> り組みへの検討、 改善が必要である。

#### 助言者より

ほしい十の姿や食育推進ビジョンを踏まえて 育所保育指針や幼児期の終わりまでに育って ていたことも、しっかりと理論を入れ、 である。また、これまでは経験と勘と言われ 込みながら、食育を推進していくことが重要 きるようにしていくこと。家庭、 点。子どもたちが五感で感じ食事を楽しくで いくことが必要である。 人は本来土から作り上げていくことが原 地域も巻き



### 第七分科会

テーマ ~保育の営みをいかに社会に発信するか~) 【保育の社会化にむけて

①御殿場市 神山認定こども園

②藤枝市 藤枝保育園 統括園長 本崎

肇

保育士 山下

中央ながかみ保育園 雅子

③浜松市

長 緒方まなみ

議 長 御殿場市 すみれ保育園

常葉大学短期大学部 長 鷹野 広

助言者

記録者

沼津市 まいとりや保育園 授 鈴木久美子

保育士 望 月 沙綾

> て聞くこ 告を併せ

マに極めて即した報告であった。そして三報

の子どもたちの課題を解決していきたい。

シャルマーケティングの技法を活用し、

地域

## 発表 二子育て支援センターの活動及び 保育園での子育て文化への

とができた。今後は地域に視野を広げ、 り組む。内容は子育て支援センターの活動と の人と人をつなぐ子育て支援を展開していき もたちが育てられていることを再確認するこ 行った。実践を通して、保育園以外の人との 流などの地域交流、情報発信による社会化を 理解、体験学習の受け入れや老人施設との交 に発信できているのかを念頭に置き研究に取 成に貢献出来たらと考え、保育の営みが社会 ふれあいの大切さ、地域の方との交流で子ど で子どもに関心を持ち、子どもの健やかな育 藤枝保育園の取り組みを発信し、 地域全体 地域

### 発表(三) 多様な人々との交流の取り組みから 子どもの育ちへ

が子以外とも交流できる貴重な場となる。 との関わりではファミリデーを取り組み、 場所にしたいという理想を持っている。 的に自然な形で大きな家族のように関われる 祉施設があり、赤ちゃんからお年寄りが日常 ビス付き高齢者住宅、その隣には介護老人福 が行き来し行事には誘い合って交流。保護者 としては高齢者との関わりで日常的にお互い 建物の一~二階が保育園、 三~四階がサー 実践

に積み上げてきたマーケティング技法、ソー る保育の体制を作り上げた。今後はこれまで の創造と見える化を実践することで、魅力あ 教育方針、様々な情報発信の活用を行い顧客 マーケティング、モンテッソーリに基づいた 保育を目指し革新を続け、モンテッソーリ教 ジメントの考え方を取り入れることで本物の

ピーター・F・ドラッカーが提唱するマネ ~保育の営みをいかに社会に発信するか~

保育の社会化にむけて

育を基本とする質の良い保育を確立。そして 二○○○にものぼる教材を開発。社会思考の

> 広がっている。家族以外の大人と関わる体験 により、心の育ちに大きな成果を感じる結果 歩で商店街に行くなど様々な体験から活動

## 関心を高めるための取組

者が異なる観点でありながら、分科会のテー となった。 が一体化した環境下における実践報告と、三 実践報告、 ンターと保育所が連携した多様な取り組みの に基づいた実践報告、発表二は子育て支援セ 助言者より ソーシャル・マネジメントという新たな発想 したかたちで多面的に発表された。発表一は、 本分科会のテーマが発展的に、そして成熟 発表三は高齢者施設と保育所施設

さと発信 とによっ った。 科会とな を実感で 意義な分 き得た有 の重要性 のゆたか 育の営み 全体で保 会場



### 第八分科会

テーマ 【公立保育園・公立認定こども園等の 使命と地域社会での役割

発表者 熱海市 小嵐保育園

園長 岩本 瑞枝

②吉田町 さくら保育園

園長 中村史余子

③ 菊 川 市 おおぞら認定こども園

主幹保育教諭 馬淵 元子

議 長 牧之原市 地頭方保育園

長 名 波 令子

授 徳浪 芳江 助言者

東海大学短期大学部

牧之原市 菅山保育園

榎本知枝子

# 幼保の連携と就学前教育の

連携の強化につながった。 との交流を図ることで、小学校や他機関との けでなく、子どもたちも近隣の幼保や小学校 り組みを行った。幼保の交流、小学校との接 掲げる「就学前教育の充実」に向け様々な取 が福祉分野から教育委員会へと変わり、 認定こども園の開設に向け、 他機関との連携等、職員の研修や連携だ 保育園の管轄 充実に向けて 市の

子どもたちの育成のため親同士が支え合い、 めながら、熱海市の未来を担い郷土を愛する 今後も公立園として、一層地域の交流を進

地域が支え合える園を目指していきたい。

#### 発表 今後の公立保育所の役割と 関係機関との連携

同じ小学校へ通う保・幼・事業所が小学校へ う認識を基に「つながりのある教育」の推進 を図っている。 訪問、こども支援事業所との交流などの連携 育カリキュラム」の作成や公開保育の実施 を掲げ、不十分だった保・幼・小が「育てた い子どもの姿」の実現に向け「吉田町幼児教 幼児教育が成長の土台として不可欠だとい

滑らかにつながるための保育について探り、 連携しながら実施していきたい。 い、発達と学びの連続性を踏まえ小学校へと 今後も子どもたちのより良い育ちに寄り添

## 発表(三) 市内幼児施設園の運営充実を

等の受け入れなど、公立園を足がかりに様々 進、要保護家庭児の全面受け入れ、職業体験 な取り組みを進めている。 ら相談しやすい関係作りなど家庭教育の推 公開保育の実施。小学校との交流、園開放か 実を目指し職員の資質向上のための講演会や に「菊川市幼児施設整備計画」の基、運営充 園児の受け入れ拡大と公私園の共存を念頭

がる人材育成が公立園としての大事な役割 保育現場から配信していきたい。 行政との繋がりの中、子どもの命を守るこ 資質向上のための話題提供、将来につな

力を合わせて行くことが大事である。 市町をリードするプライドを持ち私立園とも から更に使命は重い。保育の質の向上のため や保育料無償化に伴い税金が当てられること 繋がりやすく、要保護児童の全ての受け入れ を計るものではない。公立園は専門機関とも の振り返りのための視点であり子どもの成果 領や指針改正の成果。「一〇の姿」は保育士 続が周知されてきたことが伺える。これは要 幼保が近づこうとしていることや幼小の接

